

平成25年度「夢実現進学チャレンジセミナー」のプログラム紹介

【基調講演】

演題 「現代の若者とこれからの日本」
講師 認定NPO法人子ども・宇宙・未来の会 会長 的川 泰宣 氏
(宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 名誉教授)

システム工学、軌道工学を専門とし、人工衛星飛行計画の策定や大型ロケットの設計に活躍してきた。1985年にハレー彗星探査機「すいせい」、1998年日本初の火星探査機「のぞみ」の打上げ計画の中心的な立場にあって尽力し、近年では小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトの主要メンバーの一人として知られている。小惑星「イトカワ」の名前の由来になった故糸川英夫博士には東京大学大学院在籍時に学んだ。探査機に名前やメッセージを添付して宇宙へ送る、「のぞみ」の「あなたの名前を火星へ」キャンペーン、「はやぶさ」の「星の王子さまに会いにいきませんか」キャンペーン、「かぐや」の「月に願いを！」キャンペーンを発案するなどユニークな一面も持っている。日本の宇宙科学、ロケット開発の最前線で現場を体験した人物ならではの臨場感溢れる貴重で興味深い話のもと、「宇宙という概念は理科系だけのものではない」「理科好きでない子、宇宙好きでない子も、宇宙を感じてほしい」として、「宇宙」はあくまでも一つのキーワードに、身近な素材や現象を宇宙の視座から捉えて、未来ある子どもたちに広く知的好奇心・冒険心をかき立て、さらに「命の大切さ」に気づかせる教育活動を展開してきた。研究の傍ら、20年以上広報を務める中で、純粋に国のことを考えるなら広報より教育で社会を変えることが必要であると考え、子どもを育ててゆくことを重視し、子どもたちが育つ家庭、地域の絆を深めようと社会教育活動に邁進して「宇宙教育の父」と呼ばれている。JAXA在職中の2005年に宇宙教育センターを設立、初代センター長となり宇宙教育の礎を築き、2008年にJAXAを退職した後は大学などからの再就職の誘いを断り、NPO法人子ども・宇宙・未来の会(通称KU-MA(くーま))を立ち上げ、「子ども」と「未来」を「宇宙」でつなぐ活動に奮闘している。講演では、宇宙開発の技術的側面だけでなく、歴史的な視野に立って日本が抱えていた問題を捉え直し、東日本大震災が提起する課題を浮き彫りにすることで、過去・現在から繋がっていく未来の世界像へと参加生徒を誘い、21世紀を生きる者として何ができるのか語り合う。

【国英数授業】

県内外の指導力のある先生が、授業を行います。

| | | | | |
|----|----|--|----|----------|
| 国語 | 講師 | 鳥取県立米子東高等学校 | 教諭 | 完田 一郎 先生 |
| | | 島根県立益田高等学校 | 教諭 | 萬燈 智子 先生 |
| | 内容 | ・文系 1時間 文理共通 3時間 ・大学入試問題につながる現代文の読解方法 ・古典文章の読解演習 | | |
| 英語 | 講師 | 岡山県立倉敷青陵高等学校 | 教諭 | 田野 雅人 先生 |
| | | 島根県立飯南高等学校 | 教諭 | 日比野充直 先生 |
| | 内容 | ・文理共通 4時間 ・パラララーディングを活かした読解と英作文 ・英語の学習方法について | | |
| 数学 | 講師 | 広島県立広島高等学校 | 教諭 | 井上 芳文 先生 |
| | | 島根県立大東高等学校 | 教諭 | 間庭 竜介 先生 |
| | 内容 | ・文理共通 4時間 ・放物線に関する探究活動 ～数学の奥深さや数学的な見方・考え方のよさにふれる～ | | |

【理系 島根大学医学部実習】

島根大学医学部で、終日医学実習と講義に取り組みます。

実習 診断から治療・リハビリに至るプロセスを学ぶ。
ある疾患を想定し、診断、治療、予後管理がどのように行われるかを体験します。
例 ① 突然倒れた患者 → BLS → 診断 → 治療 → 予後管理
② ガンが疑われる患者 → 画像診断 → 手術 → 病理検査

講義 ・島根大学医学部長に、島根大学の取り組みと地域医療の重要性をお話しいたします。
・第一線の医師に、医療従事者としての心構えをお話しいたします。
・学生と夕食をともし、医療の将来を語り合います。

【文系 島根大学法務研究科模擬裁判・ワークショップ型プログラム】

プログラムⅠ

島根大学法務研究科法廷教室で、島根県弁護士会による法教育プログラム(模擬裁判)を行います。

- ① 演習 弁護士の方々等が行う裁判員裁判の模擬裁判を傍聴する。
- ② 評議 裁判員の立場から討論して、事象を多角的に考察し、評決としてまとめる。
- ③ 発表 各グループ(6人×5グループ)評議内容・評決を発表する。

プログラムⅡ 「チャレンジを恐れるな！」

社会的な事象の背景を探ることを通して、自己と他者・社会をつなげることの大切さを理解し、「チャレンジ」とはどのようなことか、考え方・思いを深める。

- ① チャレンジするとはどういうことか思いを語る。
- ② グループ(6人×5グループ)でチャレンジする意味を考え、協議する。
- ③ 各グループで協議内容を発表する。

※プログラム内容の詳細は変更される場合があります。